

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 ヨシュア記 1:5	讚 美 歌 500 みたまなるきよきかみ
讚 美 歌 29 ほのぼの昇るあさ日に	献 金
祈 禱	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 エレミヤ書 18:1~6	主の祈り 564
コリントの信徒への手紙一 12:4~11	讚 詠 546 聖なるかな、せいなるかな
讚 美 歌 II-157 この世のなみかぜさわぎ	祝 禱
説 教 『一人ひとりの“しるし”』	後 奏

「賜物にはいろいろあるが、それをお与えになるのは同じ霊。務めにはいろいろあるが、それをお与えになるのは同じ主。働きにはいろいろあるがすべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神(Iコリント12:4~6)」。同じ霊、同じ主、同じ神。主語を変えながら働きの多様さを語っている。「これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださる(12:11)。“霊”の“しるし”は、主であり、神であり、キリストである、「聖霊」のこと。

ここに列挙されている教会内での役割は「知恵の言葉と知識の言葉(12:8)」、「信仰と病の癒し(12:9)」、「奇跡、預言、霊の判別、異言、異言の解釈(12:10)」がある。キリストの体である信徒(12:27)「一人一人(12:7,11)」に、何かしらの「賜物(12:4)」が与えられているのだから、それだけに限るまい。

主なる神は預言者エレミヤに「陶工の家に行ってみろ(18:1~3)」と命じた。そして「見よ、粘土が陶工の手の中にあるように、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの手の中にある(18:6)」と教えた。

「陶工は粘土で一つの器を作っても、気に入らなければ自分の手で壊し、それを作り直す(18:4)」。私たちは「一つの器」。ろくろに置かれた(18:3)「器」はまだ作陶中で、未知をたっぷり内蔵している。私たちは陶工なる神の御手で壊される時には「苦しみ」、作り直される時には新たな光を予感する。いずれにせよ私たちは、愛が満ちる「(神)の手の中にあって(18:6)」、決して捨てられることはない。

だから私たち自身には、この私を創り、壊し、作り直される方の御心が現れている。キリストの体を形成している私たち一人一人は、言い換えるならば神による一つひとつの重要な「しるし」だ。印象的な事象だけが「しるし」なのではない。既存の「信仰枠」に入りそうなことだけが「しるし」なのではない。私たちすべてが、壊されるにせよ、作り直されるにせよ、何かしらの「しるし」となっている。「しるし」の賜物はいろいろあり(Iコリント12:4)、「一人一人(12:7,11)」のすべてがそれだ。

東京下町の打ち水された路地を歩いていて、寿司屋の欠けた湯呑に咲くサクラソウを見かけ「おっ」と思った。この適当さ、落語っぽく妙に粋じゃないか。まさしく、そうなのだ。神が多様な器としての人間を作るだけでなく、それが置かれた場や使われ方によって、「しるし」というのは唯一無二。

教会にとって「“霊”による知恵の言葉や知識の言葉(12:8)」は無くしてはならず、現代でも重視されている。ところが病の癒し(12:9)や異言が語られる(12:10)ことはほとんどない。“霊”の働きの多様性が失われたのか。いや、むしろ逆ではないか、と私は思う。仕事や価値観、生き方や興味がいつそう多彩になって、聖句通りに「一人一人に“霊”の働きが現れている(12:7)」からではないか。

ひと昔前は、教会内の壮年会や婦人会、青年会などのグループ活動が盛んだった。ところが今やそうした年齢や性別による属性は「古い革袋」になっている。だからもっと自由に、もっと個別に、自分に分与されている「キリストの体の部分(12:27)」を、「一人一人(12:7,11)」の賜物(12:4)として、制約されずに生かしたい。己が賜物、他者の賜物、お互いの食い違いを恐れることはない。そのすべてが「同じ唯一の“霊”の働き」なのだし、私たちはそれを分かち与えられた者なのだから(12:11)。

起こる出来事 思いつく事柄 こうしたすべてが「しるし」ならば ただの日常と同じじゃないか
 だがこれらは同じ唯一の“霊”の働き 御心通りに動かない私たちにつきあってくれる聖霊の働き
 2/26(水)1:30~3:00 教会カフェ(手仕事の会)。次主日 3/2 の礼拝後に役員会、カレーの日です。
 来週 3/5 は「灰の水曜日」で四旬節(レント)が始まり、復活祭の前日 4/19 まで続きます。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。